



號九第 編三十二第

要目

興亞運動の實踐的最高理念	宇田 尙
文字に見る生活探究	後藤朝太郎
支那時文と漢文なる名稱に就て	岩村成允
諸子學序說	大塚伴鹿
讀易私言	佐山專助
斯文八月號を見て	林古溪
斯文會夏季大學講習會に出席して	新垣淑明
文苑	
彙報	

斯文會發行

昭和七年六月十五日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)
昭和十六年八月廿七日印刷 昭和十六年九月一日發行

聖 堂 彙 報

○徐良外交部長の代参

六月二十四日午前十時、來朝中の汪精衛閣下の代参として、徐良外交部長には、孫祕書外隨員五名を伴ひ、湯島聖堂に到著せられた。本會よりは宇野、鹽谷、宇田、の各理事を始め、役員一同謹んで御迎へした。

宇野總務の先導にて順次大成殿に進み、一同敬虔の態度にて靜かに殿内に入り、孔夫子及び四配の靈位に親拜、崇敬の意を表した。参拜後、杏壇門前の石段の場所に於て、記念撮影を爲し、それから會議室に於て、茶菓を呈すると共に、孫祕書の通譯の下に、徐閣下より聖堂参拜は日支親善の楔ともいふべきだ云々の感想談を傾聴して、一同も大に共鳴した。かくて和氣霽然裡に午前十一時退場せられた。

○聖堂清掃奉仕

七月二十三日午前七時半、駒込中學校職員生徒八十四名、聖堂清掃奉仕の爲に來所せられ、孔子廟禮拜の上、炎天下に構内清掃を行ひ午前十一時半引揚げたり。

敬啓者同文雅好幸
樽組之聯歡遠道借遊歷山川而攜勝此次奉領學員等赴
貴會參觀一切辱叨

報 告

○夏期講習會

本會第二十三回夏期講習會は、七月二十六日より六日間、本會講堂に於て開催せるが、聽講者四十三名、講義題目は興亞理會及日支文化交流等の上に何れも須要の題目を擇びたる事として一同熱心に聴取し、殊に曹講師の支那時文講義の如きは懇切周到を極めたる爲豫定の割當時間に終了せず、三十日午後特に續講せる等講師一同熱誠を以て講了せられ、斯くて三十一日午前十一時半修了證書授與式を舉げ、鹽谷教化部長の擧式の挨拶ありて宇野總務より證書を授與し、聽講者總代岡崎市立商業學校教諭鈴木勘市氏の謝辭ありて正午終了したり。

支 那 時 文

廬 山 の 展 望

漢 代 の 文 學 に 就 いて

東 洋 倫 理 の 諸 問 題

漢 文 の 訓 讀 に 就 いて

最近の北支學界一般

東洋大學教授	曹 欽 源
立教大學教授	和田 正 俊
文政大學教授	竹 田 復
東京帝國大學教授	高 田 眞 治
東京帝國大學教授	鹽 谷 溫
東京帝國大學教授	宇 野 哲 人

偉教優待愈恒仰

規模之在望益發以傾誠比維建樹增新

進化共榮東亞

宏猷卓著

英聲早溢全球引企

吉暉尤殷頌禱 嚴眺征甫息鳩拙時形瀾海歸來彌治觀摩之願蕪謏遙貢聊擯離

索之情希此佈達藉鳴謝悃敬頌

台綏諸惟

亮照

華北教育總署直轄師範講習館館長

劉 駿 拜 啓

◎會 告

湯島聖堂啓龜式

毎月第一日曜日午前十時より

十一時までの一時間

聖堂を公開 啓龜式を執行す

各位の御参拜を歓迎す

斯 文 會

○聖堂夏期修養會

第六回聖堂夏期兒童修養會は、八月一日より四日まで四日間毎日午前八時より十一時まで、男子部は大成殿東廡、女子部は本會講堂に於て開催せり。その學校別参加兒童數は、下谷二、小石川七、牛込二三、麻布六、清島一一、濟美七、藏前一八、京橋五、明川二〇、武藏第三國民學校一、の百名にして、一日午前八時大成殿廣前に集合、宮城並に靖國神社遙拜、默禱、孔子廟禮拜、鹽谷教化部長の訓示ありて各其の席に著き講義に入る。講本は論語各篇中二十一章を擇び之に漢詩六篇を加へ、論語は林、石毛、里見、松平、川上の各講師漢詩は鹽谷教化部長解説及び吟法を教授せられ、四日豫定の如く終了、大成殿廣前に集合して孔子廟禮拜の上、講堂に於て修了證書授與式を行ひたり。

○興亞部會

七月廿七日午後五時より本會會議室に於て興亞部會を開き、今回神谷委員渡支につき從來同委員の分擔し來れる事項に關し種々協議ありて午後八時散會。出席者左の如し。

宇田部長、神谷、島田、岡部各委員

○總務部教育部聯合委員會

八月九日午後四時より本會會議室に於て漢文教授に關する諸問題調査委員會を開き、從來調査研究中の事項につき續行協議を爲し午後八時散

會せり。出席者左の如し。

飯島委員長、鹽谷理事、和田、黒木、澤田、島田、林、石毛の各委員

○編輯部會

八月十二日午後四時より本會會議室に於て例會を開く。高田部長及び
豐田、太田、川上の各委員出席、九月號の編輯に就て協議を遂げ、七時
散會する。

因に本號の執筆者たる岩村成允氏は外務省の囑託として支那通として
著名。大塚伴鹿氏は大東文化學院の出身にして故小柳博士に親炙せし學
徒。佐山專助氏は故根本通明翁の愛弟子にして、現在ハ電氣機具商とし
て令名ある人。新垣淑明氏は成城高等學校の教授である。

○役員逝去

本會顧問加藤政之助氏は昭和十六年八月二日病を以て逝去せらる。洵
に痛惜に堪へず謹みて弔意を表す。

○會員逝去

本會會員下平末藏氏は昭和十六年八月十日病を以て逝去せらる。氏は
本會に於て昭和元年孔子頌德の歌を懸賞募集したる際、應募歌數百の中
より一等に當選し、本會は之を東京音樂學校に作曲を委嘱し昭和二年小
學校唱歌用として文部大臣の認可を得、爾來毎年孔子祭典の際參列兒童
に依りて合唱せられ、又各小學校に於ても愛唱せられ居りしが、今氏の
訃に接し痛惜に堪へず、茲に謹みて弔意を表す。

○入會者

松本理三郎 瀧野川區瀧野川町四三
向山 猛夫 千葉縣立佐倉中學校
若月 邦彦 小石川區小日向臺町三ノ六四
服部 房吉 大森區入新井六ノ一五
西原 強 愛媛縣上浮穴郡久萬國民學校

昭和十六年七月 聖堂參拜人員表

日	月	火	水	木	金	土	計
七月一日	一四七	一三〇	一四七	一三二	一九四	一三八	
一六八	一三〇	一三四	一三七	二二	一六	三八	
九二	七七	四八	三八	一〇四	三八	八六	
四	三三	二二	一二六	一一一			
六〇	一三七	七四	七八				
四五四	三九三						
七三五							三、四二六

尚、團體參拜の重なるもの左の如し。

陸軍豫科士官學校生徒三一七名。駒込中學校職員生徒八十四名。誠之
國民學校兒童百五十名。小石川國民學校兒童二百名。

研究部學術講演

藩覺に於ける儒教教育の地位とその變轉

東京高等師範學校教授

文學博士 石川 謙氏

九月二十九日(月)午後六時半より本會講堂に於
いて右之通開催致候間多數諸氏の御來聽を希望
致候

財團 斯 文 會
法人

昭和十六年八月二十七日印刷 (毎月一回一日發行)
昭和十六年九月 一日發行

(本號 定價 金參拾五錢)

廣告料(一頁 金貳拾圓
半頁 金拾圓)

東京市豐島區目白町千五十七番地

編輯人 佐藤 文四郎

東京市世田谷區松原町二丁目七百六十七番地

發行人 小池 良策

定價普通號一部金參拾五錢 郵税一錢

會員及び學生は別に定むる規程(表紙裏參照)による

東京市牛込區早稻田鶴卷町百七番地

印刷人 吉原 良三

東京市牛込區早稻田鶴卷町百七番地

印刷所 株式會社 康文社印刷所

東京市本郷區湯島二丁目一番地湯島聖堂構内

發行所

財團 斯 文 會
法人

電話小石川(四)四六〇六番
振替東京四五五三〇番